

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	12-009	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and mortality in individuals with diabetes mellitus. 糖尿病患者における飲酒量と死亡との関連		
執筆者		
Sluik D, Boeing H, Bergmann MM, Schütze M, Teucher B, Kaaks R, Tjønneland A, Overvad K, Arriola L, Ardanaz E, Bendinelli B, Agnoli C, Tumino R, Ricceri F, Mattiello A, Spijkerman AM, Beulens JW, Grobbee DE, Nilsson PM, Melander O, Franks PW, Rolandsson O, et al.		
掲載誌		
Br J Nutr. 2012 Oct;108(7):1307-15.		
キーワード		
糖尿病、飲酒量、過去の飲酒量、死亡		
要 旨		
目的： 中程度の飲酒が、糖尿病患者において低い循環器死亡および早期死亡リスクと関連しているという報告がある。しかしながら、それらの報告において飲酒歴は考慮されていなかった。そこで、糖尿病を有する男女において、過去の飲酒量を考慮した上で、現在の飲酒量と死亡リスクとの関連を検討した。		
方法： European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition (EPIC)において、糖尿病の確定診断を有する 4,797 名の対象者からなるコホートを形成した。男女はそれぞれ、ベースラインと過去の飲酒量によりカテゴリー化された。軽度飲酒群(>0-6 g/日)を基準群とした多変量コックス回帰モデルにより、総死亡のハザード比 (HR) と 95 % 信頼区間(CI)を算出した。		
結果： 軽度飲酒群と比べ、6 g/日以上飲酒は総死亡と関連していなかった：6-12 g/日以上の HR は男性で 0.89 (95 % CI 0.61, 1.30) 女性で 0.86 (95 % CI 0.46, 1.60) であった。過去の飲酒量を補正してもその関連は影響を受けなかった。ベースラインでの禁酒者は軽度飲酒群と比べ高い死亡率を示した：男性の HR 1.52 (95 % CI 0.99, 2.35)；女性の HR 1.81 (95 % CI 1.04, 3.17)。		
結論： 糖尿病患者を対象とした本研究において、軽度飲酒群と比べ、6 g/日以上飲酒は総死亡と関連していなかった。非飲酒者の高い死亡リスクは、現在禁酒しているかではなく、過去の飲酒を反映している可能性がある。		